

文化財・埋蔵文化財

◎文化財・埋蔵文化財の現状

(R6.4.1現在)

指定別 種別 市町	国 指 定 ・ 登 録						
	重 要 文化財	重要無形 民俗文化 財	史 跡	名 勝	特別天然 記念物	天 然 記念物	登録有形 文化財
豊浦町				1			
洞爺湖町			1				
壮瞥町					1		
白老町		1	1				
安平町							
厚真町							
むかわ町		1					4
室蘭市	1		1	1			1
苫小牧市			1				1
登別市						1	
伊達市	4		2				
合 計	5	2	6	2	1	1	6

指定別 種別 市町	道 指 定			市 町 指 定					埋蔵 文化財 包蔵地
	有 形 文化財	史 跡	天 然 記念物	有 形 文化財	有 形 民俗 文化財	無 形 民俗 文化財	史 跡	天 然 記念物	
豊浦町					1		1		20
洞爺湖町	2			2		3	2		15
壮瞥町						2	1		1
白老町				2	3	2			46
安平町				19			8	1	86
厚真町				14	1	2		1	157
むかわ町		1	1	6				8	112
室蘭市				6	4	2		1	37
苫小牧市	1	1	1	3	2		2		317
登別市				8		1		1	36
伊達市	2			6		3	10	19	90
合 計	5	2	2	66	11	15	24	31	917

◎文化財一覧

【国指定・登録】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
重要文化財	土(輪西遺跡) (備)	東京国立博物館	国	S37.6.21	縄文時代晩期の土偶。中空で高さ19.2センチ、ほぼ完全な形態とみられる。元来赤彩。
	旧三戸部家住宅	伊達市梅本町61-2	伊達市	S46.12.28	明治初期の移住時につくられた住宅で、開拓農家として現存する最古のものである。明治7(1874)年琴似でつくられた屯田兵屋と期を一にし興味深い。
	北海道有珠モシリ遺跡出土	伊達市梅本町57-1 (だて歴史文化ミュージアム)	国	H16.6.8	続縄文時代の墓境内に副葬された骨格牙貝製品の一部。銚頭や釣針等の漁撈用具、頭部を熊の彫刻で飾る匙形製品、幾何学文が彫られた槍先形製品、小型の巻貝を素材とした装身具等、多彩な内容で構成される。これらは続縄文時代の葬送儀礼を考える上で欠かせない資料であるとともに、骨角牙貝製品の製作技術や造形の特徴を知る上で極めて貴重である。
	北海道有珠モシリ遺跡出土	伊達市梅本町57-1 (だて歴史文化ミュージアム)	伊達市	H16.6.8	縄文時代晩期から続縄文時代の墓地遺跡からの出土品一括。副葬品として墓境内に納められた骨角牙貝製品、土製品、石製品で構成される。銚頭や釣針等の漁撈用具、幾何学文が彫られた槍先形製品、南海産の貝類を素材とした貝輪等、多彩な内容で構成され、葬送儀礼や交易を考える上で欠かせない資料である。
	蝦夷三官寺 善光寺関係資料	伊達市有珠町124 (善光寺宝物館)	善光寺	H17.6.9	江戸幕府が文化元(1804)年に東蝦夷地三ヶ所に新建した蝦夷三官寺の一つ。三官寺は蝦夷地で死亡した武士、商人などの供養及び邪宗門禁制を設立の主目的としているが、アイヌの人々に対する仏教布教もその視野にあった。蝦夷地における仏教史研究のみならず、アイヌ史研究においても重要な資料群である。
重要無形民俗文化財	アイヌ古式舞踊	白老町大町6-3-22	白老民族芸能保存会	S59.1.21	アイヌ民族の古式舞踊、イオマンテリムセ(クマの霊送りの踊り)やエムシリムセ(剣の舞)などの14の舞踊が、伝承・公開されている。
		むかわ町末広町2-84-6 (ムベツ館)	鶴川アイヌ文化伝承保存会	S59.1.21	歌…ウボポ、ヤイマサ、イヨンルイカなど 踊…ホリッパ、フッサヘロ、ツルの舞など
史跡	東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡 同台場、勤番所跡	室蘭市陣屋町2-5-1ほか 室蘭市崎守町186ほか	室蘭市	S9.5.1 S49.8.22	安政2(1855)年の幕府の命により、翌安政3年南部藩が陣屋を築いた。
	白老仙台藩陣屋跡	白老町陣屋町681ほか	白老町ほか	S41.3.3 S51.7.8 H7.11.8	安政3(1856)年、ロシアの南下を警戒した幕府の命によって仙台藩が築いた陣屋跡。同藩では白老を拠点に、国後・択捉までの太平洋岸一帯を警衛した。
	善光寺跡	伊達市有珠町124	善光寺	S49.5.23	文化元(1804)年、幕府の官寺として建立、貴重な資料が数多く残されている。
	静川遺跡	苫小牧市字静川93-7~11	(株)苫東	S62.1.8	縄文時代中期の環壕が全国で初めて発見され、縄文社会を支えた精神性や文化力を知る上で重要な遺跡である。
	北黄金貝塚	伊達市北黄金町75-1	伊達市	S62.12.25 H8.6.27 H25.10.17	縄文時代前期を中心とした貝塚遺跡で、全国の貝塚遺跡群の中で最大級のもの。
	入江・高砂貝塚	洞爺湖町入江190 洞爺湖町高砂町61ほか	洞爺湖町	S63.5.13 H14.3.19 H14.12.19 H23.9.21	縄文時代前期から晩期の大規模な貝塚ほか、竪穴住居跡、墓跡、埋葬人骨が出土している。
名勝	ピリカノカ カムイチャシ ピリカノカ 絵鞆半島外海岸	豊浦町 室蘭市	室蘭市人 室蘭市人	H23.2.7 H24.1.24	ピリカノカはアイヌ語で「美しい形」を意味する。「カムイチャシ」は噴火湾に突き出た茶津岬の南端に位置し、アイヌの神聖な祭場、海上の見張り台、防衛などの役割を持ったとされる。「絵鞆半島外海岸」には、アイヌ文化の精神性や生業に基づき名付けられた地名と、呼び習わされた景観がそのままに保存されている。
特別天然記念物	昭和新山	壮瞥町字昭和新山186-3	個人	S26.6.9 (天然記念物) S32.6.19 S35.4.16	昭和18(1943)年12月の地震から生成をはじめ、昭和20(1945)年9月に最高点408メートルに達して、その活動を休止した。学術的、そして教育的観点からみて世界的に貴重なものである。
天然記念物	登別原始林	登別市登別温泉町	登別市	T13.12.9 S34.5.29 S59.9.17	北海道中帯南部の植物区系を代表する貴重な天然林である。指定区域の中には、地獄谷、大湯沼などの温泉湧出地がある。

【国指定・登録】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
登録有形文化財	室蘭市旧室蘭駅舎	室蘭市海岸町1-5-1	室蘭市	H11.7.8	明治45(1912)年に室蘭本線の終着駅として造られた木造2階建の駅舎。寄せ棟造り・漆喰カベに「がんぎ」と呼ばれるアーケードが廻り、明治期の洋風建築を示す。現存する道内最古の木造駅舎。建築面積686㎡
	北海道大学苫小牧研究林 森林記念館 (旧標本貯蔵室)	苫小牧市宇高丘	北海道大学	H12.4.28	昭和10(1935)年標本貯蔵室として建築。木造平屋建、駒型屋根の牧畜舎風建築で、屋根につけられた3連の連続窓や横長窓には時代的な特徴が表れている。
登録有形	旧中村平八郎家住宅主屋	むかわ町穂別458	むかわ町	H13.8.28	木造2階建、鉄板葺、建築面積222㎡、穂別村開拓の先駆者邸宅。起り屋根玄関庇を持つ鉄板葺、片入母屋造、平屋建の主屋と、鉄板葺、切妻造2階建、下見板張の洋館からなる北海道内陸部における大正期建築物。
	旧国鉄富内線富内駅舎	むかわ町穂別富内81-1	むかわ町	H13.8.28	切妻造平屋建、内部に待合室、事務室、宿直室を連ねる大正期の標準的な駅舎。改札左手に転轍機操作所張り出す特徴を持つ。
	旧国鉄富内線富内駅 プラットフォーム				駅舎背面に延びる石積2段のプラットフォーム。長さ75メートル程で両端部を斜路とする。
旧国鉄富内線富内駅 構内線路	土路盤、石バラスト道床、木製枕木、鉄製軌条からなる。軌条には北海道鉱業鉄道(株)が発注した外国製(5カ国)レールや日本製レールが複線で保存されている。				

【道指定】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	釈迦如来立像	伊達市有珠町124 (善光寺宝物館)	善光寺	S34.2.24	高さ162.1センチ。京都市嵯峨清凉寺の釈迦如来立像の伝模作。
	アイヌ丸木舟及び推進具	苫小牧市末広町3-9-7 (苫小牧市美術博物館)	苫小牧市	S42.6.22	発掘された丸木舟は、河川用の”チブ”3艘と海などで使用した”イタオマチブ”2艘であり、約770年前の鎌倉時代末から室町時代初期のものとして推定されている。
	円空作聖観音像	伊達市有珠町124 (善光寺宝物館)	善光寺	S52.3.11	円空は寛文6(1666)年に来道したといわれ、「鉦作り」「こっば仏」と呼ばれる神業に近い独自の仏像を作った。
	入江馬頭観世音碑	洞爺湖町入江105先	洞爺湖町	H4.3.31	文化2(1805)年に、北海道初の官営牧場「有珠・虻田牧場」創設を記念して建立された。
	入江貝塚出土品	洞爺湖町高砂町44 (入江・高砂貝塚館)	洞爺湖町	H26.3.31	縄文時代の骨角牙貝製品であり、銚頭、釣針等の漁撈具のほか、猪牙製や南海産貝製の装飾品など出土例が少ないものがある。
史跡	鶴川盛土墳墓群	むかわ町汐見	むかわ町	S41.7.7	円形で、墳墓内に数個の墓穴がみられる。続縄文文化期のもの。この他に、北海道式古墳と直刀が発見されている。
	開拓使三角測量勇払基点	苫小牧市宇勇払132-49	苫小牧市	S42.3.17	北海道開拓使は明治6(1873)年に勇払と鶴川間に基点を設定し、当時の最先端技術であった三角測量法を用いて北海道地図を作成した。
天然記念物	樽前山熔岩円頂丘	苫小牧市宇樽前国有林	国	S42.3.17	明治42(1909)年の噴火の際に、粘り気が大きい溶岩がドーム状に盛り上がり生成された。
	ホベツアラキリュウ化石	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.9.29	昭和50年に旧穂別町宇長和地内で発掘され、発見者の名前から「ホベツアラキリュウ」と命名された。約8千万年前の中生代白亜紀後期の海に生息し、日本で最初に古生物学的記載がなされた長頸竜で、学術的に価値が高い地質鉱物である。

◎文化財一覧（市町指定）

【豊浦町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形民俗文化財	アイヌ祭祀具一式（佐茂家）	豊浦町字船見町95 （豊浦町中央公民館）	豊浦町	H15.4.4	旧佐茂家に保管されていたアイヌ儀式用具一式で、杯・天目台・パスイ・イナウ・行器等の他、魔よけとして用いられた小熊の足・狐の頭蓋などを含む。
史跡	カムイチャシ	豊浦町字礼文華茶津岬	豊浦町 北海道財務局	H15.4.4	内浦湾に突出した岬上に構築、臨海性先丘式1条壕。壕内2,200㎡とその前庭部を含む。ほぼ原形をとどめ、史蹟公園として保存。

【洞爺湖町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	史跡入江・高砂貝塚9号環状列石出土の遺物	洞爺湖町高砂町4.4 （入江・高砂貝塚館）	洞爺湖町	H15.8.26	高砂貝塚出土の土偶は、護符的な意味をもち、土偶そのものが神聖視され崇拜の対象であるだけでなく、埋葬などの祭祀行事に関連した特別な意味をもつものと考えられる。9号環状列石出土の土偶及び土器は、当時の埋葬風習や縄文人の精神文化を考える上で非常に貴重である。
	洞爺村移住開拓記録「岩倉日誌」	洞爺湖町洞爺町	洞爺湖町	H9.10.13	岩倉三代吉氏が明治20年に香川県から北海道移住を受け昭和2年に死去するまで書き綴られた開拓記録日誌である。
無形民俗文化財	月浦獅子舞	洞爺湖町月浦	月浦獅子舞保存会	S44.9.20	明治33年、月浦神社建立を機に、香川県神田に伝わる獅子舞を取り入れて始められた。
	曙獅子舞	洞爺湖町洞爺町	曙獅子舞保存会	H2.6.8	明治22年に湖畔・曙地区に入植し、獅子舞が持ち込まれた。現在までほぼ姿を変えずに継承されている。
	香川獅子舞	洞爺湖町香川	香川獅子舞保存会	H17.9.30	明治36年に香川地区に入植した人たちにより香川県財田に伝わる獅子舞を導入して始められた。
史跡	入江馬頭観世音碑群	洞爺湖町入江103	洞爺湖町	S55.10.3	入江馬頭観世音碑（道指定）の周囲には明治以降も50基の碑が建てられた。
	大磯馬頭観世音碑群	洞爺湖町大磯町	洞爺湖町	S55.10.3	文政5（1822）年の有珠山噴火によって、牧士村田卯五郎を始とする100名前後の人たちが死亡、牧馬も犠牲になったと伝えられる。この3年後、富川牧場の牧士、2代目田畑小太郎（長太郎）は、大磯に「観世音」碑を建立された。これは、有珠山噴火という惨事や崖からの転落によって失われた馬の供養と父母（初代小太郎とその妻）の追悼供養を合わせた鎮魂の祈りのために建立したものと考えられる。

【壮瞥町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
無形民俗文化財	仲洞爺獅子舞	壮瞥町字仲洞爺	仲洞爺獅子舞保存会	S53.12.18	明治39年に宮崎文治、近藤銀蔵、宮武弥一らが発起人となり、出身地香川県三豊郡財田町（現財田市）に伝承されていた獅子舞を郷土芸能として取り入れたのが始まりである。
	久保内獅子舞	壮瞥町字久保内	久保内獅子舞保存会	H5.1.20	昭和6年に創設したもので、宮下勇夫が宮城県名取郡岩沼に伝承されている獅子舞を習い覚え、三浦勝之助、越後富次郎と3人で協力して、獅子頭を作り、同年9月12日久保内神社に奉納したのが始まりである。
史跡	紫明苑	壮瞥町字滝之町287-56、154	壮瞥町	H24.11.19	明治20年、壮瞥に農場が開かれた際に、米国から輸入した農具等を格納するために建てられた。また、紋瞥とルスツ農場の中継要所としても使われ、当時としては珍しい和洋両形式を取り入れた建築物である。

【白老町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	社台1遺跡出土の朱塗土器	白老町本町1-1-1	白老町教育委員会	S61.4.4	女性を思わせるようなゆったりと豊かに胸部がふくらんだ優美な朱塗りの大壺など多くの土器や石器が、縄文時代晩期亀ヶ岡文化期の墓72基から出土。
	アヨロ遺跡出土の装身具等	白老町本町1-1-1	白老町教育委員会	S61.4.4	続縄文時代の墓から110を超える恵山式土器とともに1,376個もの琥珀製平玉などの装身具が多数出土。
有形民俗文化財	ルウンハ	白老町若草町2-3-1 (国立アイヌ民族博物館)	国立アイヌ民族博物館	S61.4.4	和人との交易で得た木綿の古着に、絹・メリンス・木綿などの色物の古裂を細かく切って張り付け、さらにその上から刺繍を施したもの。白老から噴火湾沿岸の限られた地域にのみ伝えられている。
	白老八幡神社社宝5点	白老町本町1-1-11 (白老八幡神社)	白老八幡神社	H8.6.5	ロシア皇帝エカテリーナⅡ世像として伝えられる「仙台藩士奉納女性像」をはじめ絵馬・扁額等の社宝は、江戸時代後期及び幕末の白老の歴史を鑑みるに重要である。
	アイヌ生活用具コレクション (児玉コレクション)	白老町若草町2-3-1 (国立アイヌ民族博物館)	国立アイヌ民族博物館	H12.3.31	アイヌ資料の個人的なコレクションである「児玉コレクション」は、2,279点に及ぶ個人収集のものとしては世界有数である。道内はもとより樺太アイヌにまで及び、アイヌ文化の調査研究に欠かせない一級資料となっている。
無形民俗文化財	虎杖浜越後盆踊り	白老町字虎杖浜	虎杖浜越後盆保存会	H12.10.3	新潟県北蒲原郡から虎杖浜地区への移住者らにより、明治40年頃から唄い踊り継がれてきた。“新保幸代寺踊り”がルーツと言われる。
	白老町伝統文化継承者	白老町内	野本ハナエ(芸能・食)、野本ヨシエ(工芸・芸能)、近藤ノリ子(工芸)、野本リヨ(工芸・芸能)、林イツ子(芸能)、中山ツヨ(食・儀礼・生活)、布沢幸(工芸・生活)、浜ミツエ(食・工芸)、小崎リヨ(食・儀礼)、熊野茂子(食・儀礼・言語)、塚原信雄(生活)、大島信也(工芸)、伊藤信吉(工芸)、伊藤陽子(工芸)、新井田幹夫(住・儀礼)、塩田知治(住・生活)、下河やエ(工芸・芸能)、松永八重子(工芸・芸能)、須貝千代雄(芸能)、本間ユキ子(芸能)、岡田育子(工芸)、高橋志保子(芸能)、相木久紀(生活)、山崎シゲ子(芸能)、菅野節子(芸能)、大須賀るえ子(言語)	H19.3.8 H20.12.12 2 H23.3.30 H25.3.28 H27.3.30 H29.3.23 R5.2.24 R6.1.16	アイヌの古式舞踊、伝承的食文化、手工芸技術を永年にわたり継承し、後継者育成に寄与し、その知識・技能を生かし次代を担う世代の模範ともなる25名を指定。(平成19年3月8日5名指定、平成20年12月12日5名指定、平成23年3月30日4名指定、平成25年3月28日4名指定、平成27年3月30日4名指定、平成29年3月23日1名指定、令和5年2月24日2名指定)、令和6年1月16日1名指定)

【安平町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	蒸気機関車D51-241号機 主動輪・ナンバープレート	安平町追分柏が丘49-1 (安平町鉄道資料館)	安平町	H12.11.21	D51として本道の軌道(線路)を最後に走ったD51-241号機の主動輪一基とナンバープレート一枚。
	蒸気機関車D51-320号機	安平町追分柏が丘49-1 (安平町鉄道資料館)	安平町	H12.11.21	旧追分町がJR北海道より無償貸与されていた蒸気機関車。令和2年より譲渡され、所有者が安平町へ変更された。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	火災消火機用ポンプ	安平町追分本町6-54	安平消防支署 追分出張所	H12.11.21	民間の自衛消火として追分町内に残っていたものを消防の歴史を伝える物件として保存。
	消防半鐘	安平町追分本町6-54	安平消防支署 追分出張所	H12.11.21	大正4年11月「御即位記念鐘」と明記された火災警鐘用とされる半鐘。
	小型消防ポンプ車	安平町追分本町6-54	安平消防支署 追分出張所	H12.11.21	アメリカ、ウィルス社製造（昭和30年製）の小型消防ポンプ車。
	1890年代の軌道レール	安平町追分柏が丘49-1 (安平町鉄道資料館)	安平町	H12.11.21	ドイツ・イギリスに北海道炭鉄鉄道会社が製造発注したレール2本。明治25（1892）年、室蘭線の開通時を町の誕生と定めた同時期のレールとして貴重。
	灌漑溝記念碑	安平町追分豊栄	安平町	H12.11.21	大正11年に新田開発に向け工事開始、大正15年に完成。記念碑は、当時の苦勞を祝い昭和6年に建立。平成11年に現在の地に移設。
	明春辺灌漑溝記念碑	安平町追分春日	安平町	H12.11.21	大正7年着工、大正8年完成。完成を記念し大正11年に記念碑を建立。
	開拓の碑（早來町開基の地）	安平町早來富岡224	安平町	H20.12.25	佐々木駒吉が農耕放牧地としてフモンケの開拓を志し、明治22年秋に約50町歩の払下げの許可を受け開墾した。
	水田発祥の地（記念碑）	安平町安平	安平町	H20.12.25	支安平川と明春辺川の交わる北側のところ。（昭和44年9月建立。明治26年鳥取県人布広空太郎が単身この地に踏込み水田耕作に成功したことを記念して建立）
	石倉	安平町早來大町21	個人	H20.12.25	昭和8年基礎工事をし翌年の昭和9年建造完了。建造目的は雑穀貯蔵のためであるが、戦時中は軍需品を一時保管。現在は木炭倉庫として使用。
	開拓記念碑	安平町早來瑞穂1211	支安平神社	H20.12.25	昭和44年9月建立。明治27年入植以来苦難の開墾を続けていた記念に建立。
	開拓の碑	安平町早來緑丘	安平町	H20.12.25	昭和17年9月建立。昭和8年民有未墾地創設地として開放をうけてから開拓10周年を記念して建立。
	記念碑	安平町早來北進92-9 (旧早來中学校)	安平町	H20.12.25	昭和59年9月建立。昭和58年度北海道教育実践表彰受賞と、同校卒業生橋本聖子選手サラエボオリンピック出場を記念して建立。
	名馬テンポイントここに眠る (記念碑)	安平町早來富岡	個人	H20.12.25	昭和53年10月建立。昭和51年のダービーで前足骨折着外になるなど悲運がつきまとう。52年春の天皇賞、暮れの有馬記念を制し日本一の座についたが、53年1月左後足を複雑骨折、競馬会史上初の大手術を行ったが死去した。
	チーズ発祥の地（記念碑）	安平町遠浅125-1	安平町	H20.12.25	日本初の本格的なチーズ工場が昭和8年に建設され、工場生産としては日本における「チーズ発祥の地」。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	聖恩の碑	安平町遠浅766-2ほか	遠浅酪農組合	H27.11.27	昭和11年11月建立。昭和5年に、空知管内滝川産乳組合を中心に、現在の遠浅地区へ集団移住開始。火山灰地に苦労したがトラクター導入により約1,180haを開墾。ダニ熱という風土病により多くの牛が死に、出荷する牛乳も輸送中に腐敗して送り返されるなど苦労が多かったが、地道な経営を続け、先の見通しが立ち、昭和11年10月3日に「不毛の火山灰地を開拓し酪農郷を建設した」として、遠浅酪農部落に天皇勅旨が差し遣わされた栄誉を記念して建立された。（佐上信一北海道庁長官の書）
	遠浅酪農更生の誓	安平町早来大町95	遠浅酪農組合	H27.11.27	昭和13年作成。昭和5年に、空知管内滝川産乳組合を中心に、現在の遠浅地区へ集団移住が開始され、酪農の町として現在全国的に著名となるに至った素因となる。当時は林業に代わる産業の誘致で集団移住し遠浅酪農開拓事業が始まったが、火山灰地の開墾に苦労し、また、ダニ熱による牛の死や、不況による乳価の下落、凶作などで多額の負債を背負い生活は大変苦しかった。その様な中で、昭和13年に組合員らで「遠浅酪農更生の誓」をたて、あらゆる困苦欠乏に耐えこの苦境を乗り切り、初志を貫徹することを誓い、各自これに署名し、以来五年間にわたる更生計画を樹立したのである。
	瑞雲寺本堂・薬師堂	安平町早来栄町49	宗教法人 瑞雲寺	R2.3.25	瑞雲寺は開祖者・前谷慧光により明治29年、現在地に布教所を開設した。明治39年、人口の増加に伴いそれまでの建物では手狭になったため本堂の建替えを発願し、地固め作業を開始した。信徒や信徒以外の地域住民の寄付もあり、明治41年8月1日に落成した。安平町黎明期における貴重な歴史的建造物。
史跡	教育発祥の地	安平町追分本町3丁目7	個人	H12.11.21	昭和26年、町の有志により寺子屋方式による子ども達の教育が始まった場所。
	学校施設建設の地	安平町追分本町1丁目	個人	H12.11.21	明治27年に苦小牧尋常小学校植苗分校として創立。明治35年に移転するまで、学校があった場所。
	北海道炭坑鉄道骸炭所（コークス工場跡）	安平町追分白樺1（白樺公園）	安平町	H12.11.21	明治34年、当時は東洋一の規模を誇るコークス工場が建設。翌年よりコークスの製造が開始された場所。
	追分機関区跡地	安平町追分白樺2	安平町	H12.11.21	明治25年追分停車場線の開業と同時に機関区が置かれた。北海道の中でも5本の指に入る重要な拠点として役割を果たした場所。
	日本最古の指定の保健保安林	安平町追分白樺2	安平町	H12.11.21	明治35年、日本で最初に保健保安林の指定を受けた貴重な森。
	郵便局の始まりの地	安平町追分本町1	J A 追分	H12.11.21	明治29年、現在のJ A 追分支所の付近に追分郵便局が開設された。
	富士酒造合名会社の跡	安平町早来大町127	個人	H20.12.25	明治28年に高橋久松が「高橋酒造所」を開業した。昭和17年企業整備会の公布によって「早来酒造」と合併して室蘭酒造株式会社早来工場となり、昭和22年山田武雄が独立し早来酒造合名会社、昭和27年に富士酒造合名会社となる。

【安平町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
史跡	三井物産専用馬車鉄道の跡	安平町早来大町～早来北進	安平町ほか	H27.11.27	三井物産合名会社により、鉄道枕木その他木材搬出目的で早来停車場から厚真村字ケッペ（現在の本郷）まで約6.5kmの馬車鉄道を敷設し明治37年12月に竣工。その後、振老（現在の厚真市街）まで1.6km延長された。昭和6年のガソリン車導入により馬車鉄道が廃止。戦後の自動車工業の発達により昭和24年に敷設以来45年の歴史を有す軌道が撤去。
天然記念物	ニシの大木	安平町追分向陽	追分ファーム	H12.11.21	追分地区に現存する最も太い大木。推定樹齢300年。

【厚真町】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	獅子頭	厚真町字幌内616-1 (幌内神社)	幌内神社氏子	S48.10.22	明治40年9月、山で働く岩手県出身の人達が寂しさをまぎらわすために作り、幌内神社に奉納したと言われている。シコロ（キハダ）の木で約5kg。
	丸木舟	厚真町字軽舞205-2 (旧軽舞小学校)	厚真町教育委員会	S48.10.22	明治10年頃に厚真川河口の渡舟用として使っていたもの。舟の前後とも上部の両端をアゴ形に残し、他を10cmほど削り落とした道内唯一の割竹形で、縦断面はメーリングン形をしている。ナラの木で長さ5.6m、内径45cm、円周1.75m。
	鱧口	厚真町字軽舞205-2 (旧軽舞小学校)	浜厚真神社氏子	S57.4.1	120年ほど前に本州で制作され、豊漁と漁の安全を祈願して浜厚真神社に奉納したと推測。直径20cm、厚さ8cm。
	御輿	厚真町字新町75 (厚真神社)	厚真神社宮司	S57.4.1	明治2年、明治天皇が道開拓使長官として東久世通禧（ひがしくぜ・みちとし）が赴任するに当たり、北海道の鎮守として開拓三神を授かった。最初、三神は1基の御輿にまとめて札幌神社に奉られていたが、明治32年に3基に分けられたうちの1基である。
	振老灌漑用水記念碑	厚真町字朝日192	厚真町第5区用水組合	S48.10.22	明治41年11月15日、3.6kmの用水施設の完成を記念して建立。高さ2.18m、幅50cm、厚さ26.5cm。
	青木与八記念碑	厚真町字浜厚真132-2 (浜厚真神社)	浜厚真自治会	S57.4.1	昭和3年、浜厚真開拓の祖としての功績を称え浜厚真青年団が建立。高さ1.27m、幅56cm、厚さ26.5cm。
	松浦武四郎之碑	厚真町字富里179-1	厚真町教育委員会	S57.4.1	昭和32年、蝦夷地探検家であった「松浦武四郎」が安政5年6月この地に2泊したことから探検100年を記念して建立。高さ1.38m、幅78cm、厚さ31cm。
	アイヌの丸木舟	厚真町字軽舞205-2 (旧軽舞小学校)	厚真町教育委員会	H30.5.31	平成19年5月、厚真川中流域の上野地区河川敷にてほぼ完形の丸木舟を再漂着の状態で発見。年代測定の結果、製作時期は15世紀代。内水面用の丸木舟。全長663cm、幅70cm。樹種はカツラ。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	正楽寺本堂	厚真町字軽舞295-2	正楽寺	R2.1.31	大正2年(1913年)落成。木造入母屋造(桎葺き屋根・外装金属板一文字葺き)。正面幅23.57m、奥行き24.45m、高さ14.06m。町内で最も古い寺院建築。境内は町指定天然記念物「正楽寺の樹林」となっており、本堂とあわせて厚真町発展期の様相を伝えている。
	専厚寺本堂	厚真町字桜丘209	専厚寺	R2.2.14	大正8年(1919年)落成。木造入母屋造(銅板一文字葺き)。正面幅17.7m、奥行き23.38m、高さ14.35m。町内北部を代表する寺院建築物。境内は明治30年から大正4年まで厚真村戸長役場が置かれていた場所でもある。
	真正寺本堂	厚真町字表町13-1	真正寺	R2.4.28	昭和6年(1931年)落成。入母屋造(金属板一文字葺き)。正面幅23.57m×奥行き25.45m×高さ14.06m。市街地の寺院で、太平洋戦争時には戦没者の村葬も執り行っている。また昭和24年11月の厚真大火の際には一時避難所としても利用されていた。
	厚真神社社殿	厚真町新町73-2、75-1	厚真神社	R2.4.28	昭和51年(1977年)落成。正面幅15.9m×奥行き20.02m×高さ7.58m。幣殿・拝殿とともに建築した棟持柱を持つ切妻屋根の神明造(銅板一文字葺き)。隣接する旧本殿と合わせて神社建築様式の比較建築物ともなっている。
	厚真神社旧本殿	厚真町新町73-2	厚真神社	R2.4.28	大正2年(1913年)落成。木造一間社流造(銅板一文字葺き)。正面幅4.76m×奥行き5.84m×高さ4.86m。町内で最も古い神社建築。擬宝珠には寄附人に厚真町の産業発展の基礎を築き上げた早来軌道の永谷仙松氏の名も刻まれており、厚真町の当時の隆盛を伝えている。
	厚幌ダム遺跡群出土の擦文・アイヌ文化期の精神及び葬送儀礼に伴う遺物群	厚真町字軽舞205-2(旧軽舞小学校)	厚真町教育委員会	R4.11.25	先住民族アイヌの方々の伝統儀式カムイノミのルーツを示す約1,000年前の擦文時代後期の出土遺物と約800~400年前にかけてのアイヌ文化期のお墓から出土したタマサイ(首飾り)やイカヨピコロ(飾り矢筒)、エムシ(蝦夷太刀)などの葬送儀礼を示す副葬品。また博多や北方大陸との交易を示す資料としても貴重な資料。
有形民俗文化財	熱送り及び太鼓	厚真町字軽舞	軽舞農事組合	S48.10.22	明治36年、富山県の所有者から買い受けたもので、豊作を祈願するため毎年7月31日に神社前で奉納太鼓を打ち鳴らし、軽舞地区の各戸を回る。
無形民俗文化財	幌内神楽	厚真町字幌内	幌内神楽保存会	S48.10.22	明治40年に完成し、岩手県の南部神楽の流れをくむ。獅子頭と神楽舞からなり、頭を持つ2人の踊り手と太鼓、笛、ホラ貝、テンピラなど7人で構成。
	興隆寺灯籠流し	厚真町京町117	興隆寺	R3.8.30	昭和30年頃から約60年以上にわたり毎年8月に厚真川厚真新橋付近から約200個ほど流下させる年中行事で、寺院檀家のみならず町民も参加しているお盆時期の風物詩。
天然記念物	正楽寺の樹林	厚真町字軽舞294(正楽寺境内)	正楽寺	S48.10.22	寺の2haの境内に樹齢100年ほどになるニホンアカマツや周囲3.7mの100年桜など28種類390本の樹林。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	聖観世音菩薩像 (通称賢治観音像)	むかわ町穂別富内91-18	むかわ町	S54.3.5	宮沢賢治の描いた理想郷「イーハトーブ」思想に強い影響を受けた故・横山村長が、昭和27年町営発電所建設工事の安全と豊かな村づくりを祈願して作られた。檜一木彫立像、1.8m、佐藤端圭作。
	鵜川大漁地蔵尊	むかわ町宮戸74	鵜川大漁地蔵尊会 奉賛	H6.3.28	総丈130cm。木像立像の地蔵尊像。文政8年、チンのシゲアングルが、入鹿別の浜辺に打ち揚げられていた木造を発見し、勇払に祀った。勇払弁天社に祀られた姿は、松浦武四郎の古記録に登場する。明治23年、井目戸のトミルカの宅地に遷座、ついで宮戸280番地へ遷座、さらに明治33年にチンの三上ウェンカトムの宅地に遷座。明治35年に宮戸108番地に堂宇を建立、大正6年に現在地へ地蔵堂を新設して遷座、増改築を経て現在に至る。毎年8月23日・24日に祭典を開催。
	八王子千人同心移住隊士市川彦太夫墓石	むかわ町花園3-15	宗教法人永安寺	R3.7.30	墓石は砂岩の自然石で幅35cm高57cm。明治時代に汐見地区で発見され、現在は永安寺境内に保管されている。遺品や遺骨は伝わっていない。銘文は「武州江戸八王子文化三歳寅正月 俗名 市川彦太夫墓」。市川彦太夫は、八王子千人同心原半左衛門胤敦の手付として、寛政12(1800)年3月の蝦夷地移住第一陣に参加した人物。地元では、八王子千人同心の農場やアイヌ民族と移住隊士に交流のあったことが語り伝えられている。鵜川大漁地蔵尊境内には市川彦太夫の名前を記した記念碑が設置され、むかわ町指定文化財第1号の鵜川大漁地蔵尊とあわせて、地域の歴史を残し語り伝える活動が、地域住民により継続されている。
	天保の石灯籠	むかわ町美幸3-3-1	むかわ町	R3.7.30	近世ユウフツ場所のムカワ地に関わる一対の石灯籠。天保5(1834)年3月に寄進。長い年月を経て各部が失われ、笠、棹、基台が残る。1830年代のユウフツ場所とムカワ地の関係を示すもので、鵜川地方における和人とアイヌ民族の関わりを伝える歴史的な資料である。
	鵜川村記念写真帖	むかわ町美幸3-3-1	むかわ町	R4.7.26	鵜川村記念写真帖は、昭和天皇ご即位の年にあわせて、開村35年を記念して出版した刊行物である。本書の内容は、庁舎、警察署、郵便局、学校、鉄道をはじめ、町の政治経済産業文化を担う各界の代表者の生い立ちと実績を、写真入で紹介する構成となっている。現在の本町で活躍する住民に深い関わりのある人物も多く登場しており、昭和初期の街並みや産業の風景、住民の暮らしぶりなど、今日では容易に見ることができない画像を通じて、町の歴史を知ることができる貴重な資料である。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	鶴川外七ヶ村戸長役場等文書	むかわ町美幸3-3-1	むかわ町	R4.7.26	鶴川外七ヶ村戸長役場に関連する古文書類。主に、明治44年～明治45年にかけて、鶴川外七ヶ村戸長役場から、汐見地区部長の辺泥五郎氏に宛てた一連の通知文等を含むものであり、明治44年の皇太子奉迎事務に関する文書や、農業を中心とする産業一般に関わる多数の文書で構成され、シシャモ漁業権や流送など、本町の歴史的な成り立ちに関わる内容も含まれており、明治時代末の本町住民の生活を知ることができる貴重な資料である。
天然記念物	フォスフォロサウルス・ボンベテレガンズ	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	平成21年8月にむかわ町穂別平丘で採集された。約7,200万年前の後期白亜紀の地層から産出し、日本産モササウルス類の中で頭骨が産した希少な標本である。モササウルス類の中でも稀なハリサウルス亜科で、平成27年に新種として記載された。
	モササウルス・ホベツエンシス	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	昭和57年12月に旧穂別町字平丘で採集された。約7,200万年前の後期白亜紀の地層から産出し、日本産のモササウルス類としては初めて新種として記載された標本である。胴椎・肋骨・右前肢などが発見された。
	メソダーモケリス・ウンテュラータス	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	昭和55年9月に旧穂別町字稲里で採集された。平成8年に新属新種として記載された約7,200万年前の後期白亜紀のウミガメで、日本周辺からしか産出していない重要な標本である。
	アノマロケリス・アングラータ	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	昭和52年に旧穂別町字富内で採集された。約9,900万年前～9,300万年前の後期白亜紀の地層から産出した陸生カメで、平成13年に新属新種として記載された。日本産のナンシュケリス科としては最も完全に背甲が保存されている標本である。
	ティロサウルス	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	昭和60年9月に旧穂別町字長和で採集された。約8,000万年前の後期白亜紀の地層から産出した頭骨を含むモササウルス類の標本。日本国内から産出したティロサウルス亜科としては、この標本の他に1例しかない。
	モササウルス・プリズマティクス	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	平成7年4月に旧穂別町キウスで採集された。約8,300万年前～6,600万年前の後期白亜紀の地層から産出した頭骨を含む標本で、平成11年に日本産モササウルス類としては2番目に新種として記載された。
	ケントリオドン・ホベツ	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	H29.4.1	昭和62年9月に旧穂別町で採集された。約1,500万年前の新生代中新世の地層から発見された絶滅したケントリオドン科イルカの一つで、平成6年に新種として記載された。日本産ケントリオドンとしては唯一種まで判明している標本。
	カムイサウルス・ジャボニクス	むかわ町穂別80-6 (むかわ町立穂別博物館)	むかわ町	R2.8.27	カムイサウルス・ジャボニクスは、平成15年に地元住民の堀田良幸により発見され、令和元年に古生物学的記載がなされた日本で初めての後期白亜紀の恐竜全身骨格化石である。生息した陸上だけでなく、海の沖合いの地層から発見されたことも契機となり、一部の恐竜が海岸線近くに生息し、独自の進化をとげたという新しい考えが生み出された。当時の生態系解明に大きく貢献し、学術的価値が高いだけでなく、「カムイサウルス」や「むかわ竜」の愛称で町民に親しまれている化石としても価値が高い。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	輪西屯田兵記念碑	室蘭市宮の森1-1-64 (中島神社境内)	中島神社管理者	S47.3.23	明治19年に室蘭屯田兵中隊本部が建設され、その記念碑が明治42年に建立された。
	輪西屯田兵旧火薬庫	室蘭市宮の森1-1-64 (中島神社境内)	中島神社管理者	S47.3.23	明治19年に建設された室蘭屯田兵中隊本部の火薬庫。
	日本製鋼所室蘭製作所製造複葉機エンジン「室0号」	室蘭市茶津町4 日本製鋼所M&E株式会社 室蘭製作所	室蘭市	H11.9.2	国産第1号の航空機エンジンで、室蘭の企業が1918年に完成させた。
	南部藩陣屋跡出土砲弾	室蘭市陣屋町2-4-25 (室蘭市民俗資料館)	室蘭市	H22.3.3	安政3(1856)年から慶応4(1868)年まで南部藩により構築・使用され、国指定史跡となっている史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡から出土した砲弾。昭和45(1970)年の内陣発掘調査における出土資料である。鉄製の球形砲弾で、柘榴弾(ざくろだん)と銃玉(ずくだま)、計79点からなる。
	胆振国室蘭郡全図	室蘭市本町2-2-5 (市立室蘭図書館)	室蘭市	H22.3.3	絵図・軸装(ただし原本は折図)。絵図目視範囲で縦54.0cm、横78.8cm。紙本に手書・彩色。図書館の所蔵印あり。制作者及び所蔵経緯は不明。名称は「膽振国室蘭郡全図」と記載される。明治初期に作成された室蘭周辺の絵図。チマイバツからワシバツまでの範囲で、各地の地名や道路・里程、当時の入植者や植生・海産物などの情報が細かく記載される。ただしその記載は蘭北に詳しく、蘭西は疎。制作年代については、明治4~5年と推定されている。
友情人形(青い目の人形)	室蘭市陣屋町2-4-25 (室蘭市民俗資料館)	室蘭市	H22.3.3	全長39cm、重量約700gのコンポジションドール。アメリカ製。人形本体と靴が贈られた当時のものである。音声装置が組み込まれており、本来「ママー」と発声したとされる。眼球も可動する。摩擦により一部判読不能であるが、背中には、「GENUINE MADAME HENDREN DOLL 216」と製造先によるスタンプがなされている。昭和2年アメリカより「友情人形」として日本各地に約12,000体贈られた人形のうちの1つ。絵鞆尋常高等小学校(当時)に贈られた1体を、養護教員をしていた泉田ヒデ氏が戦後約50年間保存し、平成6年に資料館に寄贈された。	
有形民俗文化財	輪西屯田兵関係資料	室蘭市宮の森1-1-64 (中島神社境内)	中島神社管理者	S47.3.23	中隊本部が使用していた印鑑、軍服等。
	仙台藩角田領添田家関係資料	室蘭市陣屋町2-4-25 (室蘭市民俗資料館) 室蘭市本町2-2-5 (市立室蘭図書館)	室蘭市	S47.3.23 S48.3.27 H10.5.7	明治3年に入植した添田龍吉らは室蘭開拓の事業にあたった。仙台から持参した銃、刀等、また開拓期にかけ作成された文書類。
	瑞泉鍛刀所の躰	室蘭市茶津町4 日本製鋼所M&E株式会社 室蘭製作所	日本製鋼所M&E株式会社 室蘭製作所	H12.11.2	堀井家歴代の刀匠は、この用具を使って数々の名刀を生み出してきている。
	石川家不動明王像	室蘭市神代町77 (地藏堂)	個人	H15.1.9	高さ1尺の立像で台座等全容を一つの安山岩からの全面に高肉彫りに彫成。金箔、朱色で旧角田領主石川氏が奉じていたと伝えられている。
無形民俗文化財	室蘭神楽	室蘭市海岸町2-9-3 (室蘭八幡宮社務所)	室蘭神楽保存会	H10.5.7	明治34年に新潟県の三条神楽が室蘭八幡宮に奉納され、今日まで伝承されている。昭和初期に、御当地神楽「鯨神の舞」が創作された。
	御供獅子舞	室蘭市香川町22	室蘭市香川町郷土芸能保存会	H10.5.7	明治25年に香川県から入植した開拓者によって始められ、今日まで受け継がれている。
天然記念物	白鳥大橋海底部等出土の材化石及び貝化石の標本	室蘭市祝津町4-16-15 (白鳥大橋記念館) 室蘭市幸町1-2 (室蘭市教育委員会) 室蘭市陣屋町2-4-25 (室蘭市民俗資料館)	室蘭市	H12.11.2	これらの化石を調査したところ、室蘭港はかつて湖であったことなど、3万9千年前以降における室蘭の地形の生成過程が明らかになった。

【苫小牧市】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	錦岡樽前山神社円空作像 樽前権現及び奉納品7点	苫小牧市宮前町3-6-20 (錦岡樽前山神社)	錦岡樽前山神社	S54.12.28	寛文6(1666)年、円空が製作したもので、像の背に「たろまゑ乃たけ」の刻銘がある。ほか、江戸時代以降に製作された奉納品7点が同社に奉納されている。
	林重右衛門墓碑	苫小牧市字錦岡238-7	苫小牧市	S54.7.4	江戸時代、樽前浜でイワシ漁を営んでいた人物で、天保10(1839)年病没後、場所請負人の井筒屋大橋久右衛門により建立された。
	タブコブ遺跡出土の遺物	苫小牧市末広町3-9-7 (苫小牧市美術博物館)	苫小牧市	R5.3.24	昭和58(1983)年にタブコブ遺跡の発掘調査で発見された「クマ意匠」付浅鉢型土器と鉄製品は、ともに続縄文時代前半の恵山文化期の墓から出土した。浅鉢型土器はクマが対の位置2か所に土器内部を覗き込むように貼り付けられる。鉄製品は小型の斧あるいは楔状と考えられ、本州からの搬入品と見られる。
有形民俗文化財	勇払恵比須神社奉納品21点	苫小牧市字勇払138-1 (勇払恵比須神社)	勇払恵比須神社	S36.10.4	明治時代はじめの神仏分離により、蛭子神社(勇払恵比須神社)に勇払地区各社の奉納品が収納保存された。
	勇武津不動及び奉納品7点	苫小牧市字勇払46-2	勇武津波切不動明王奉賛会	S59.4.6	享和3(1803)年、当時の幕府役人、商人らが願主となって建立し、奉納品7点とともに航海安全、漁業繁栄などを祈願した。
史跡	勇払会所の跡	苫小牧市字勇払50-4、12	苫小牧市	S31.3.10	寛政11(1799)年、外国の脅威に備えるために江戸幕府は蝦夷地を直轄し、当時の商業・交通の中心であった勇払に、国防・行政上の見地から設置。
	蝦夷地開拓移住隊士の墓	苫小牧市字勇払132-38	苫小牧市	S31.3.10	蝦夷地の防備と開拓のために勇払に移住してきた八王子千人同心子弟ら及び勇払場所関係者の墓碑。

【登別市】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	円空作観音像	登別市登別温泉町無番地	(一社)登別国際観光コンベンション協会	H5.9.2	寛文6(1666)年に、円空が道南地方を巡りながら作ったといわれる観音像の一つ。
	円空作聖観音像	登別市登別温泉町119-1 (観音山聖光院)	観音山聖光院	H5.9.2	昭和32年に、名古屋市の荒子観音寺に安置されていた観音像を入手したものの。
	高村東雲作観音像	登別市登別温泉町119-1 (観音山聖光院)	観音山聖光院	H5.9.2	三代目高村東雲による一連のまとまった遺作として貴重な文化財。
	日野愛憲の「明治二年以降片倉家北海道移住顛末」	登別市片倉町6-27-2 (登別市郷土資料館)	登別市教育委員会	H5.9.2	明治2年に宮城県白石市から登別に移住してきた日野愛憲が、移住後24年間のできごとをまとめた登別の貴重な開拓記録。
	黒澤家史料	登別市片倉町6-27-2 (登別市郷土資料館)	登別市教育委員会	H10.2.10	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に代々伝わる武家文書。
	幌別村役場文書	登別市片倉町6-27-2 (登別市郷土資料館)	登別市教育委員会	H31.4.26	幌別村役場内において作成又は受理され、管理・保存されてきた明治5年(1872)から昭和21年(1946)までの、登別市における行財政、教育等の基礎的事項を断続的に網羅する文書。
	片倉家主従開拓記念碑	登別市中央町6-14-1 (刈田神社)	刈田神社	R4.3.30	片倉家の旧家臣団の移住から60年近く経った大正15(1926)年6月20日に、移住者の子孫が四散してしまい、父祖の奮闘努力が没却していくことを憂えた移住者の子孫らによって、幌別郡郷社刈田神社境内に建てられた顕彰碑である。

【登別市】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	文 草 の 記	登別市片倉町6-27-2 (登別市郷土資料館)	登別市教育委員会	R5.2.24	明治15(1882)年5月に讃岐国那珂郡今津村(現香川県丸亀市今津町)から家族とともに北海道へ移住した宮武藤之助が、昭和24(1949)年に当時の生活を思い起こして綴った回想録。
無形民俗文化財	幌 別 鉱 山 獅 子 舞	登別市富士町7-48-4	幌 別 鉱 山 獅 子 舞 保 存 会	H5.9.2	鉱山町で働く人々の安全と鉱山の増産を願って踊られた獅子舞である。
天然記念物	登別化石林の炭化木(トドマツ)	登別市片倉町6-27-2 (登別市郷土資料館)	登別市教育委員会	H29.2.1	昭和59年の北海道縦貫自動車道工事の際に発見された、約43,580年前のクッタラ火山の噴火堆積物により形成されるもの。

【伊達市】

(R6.4.1現在)

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
有形文化財	土 蔵 倉	伊達市鹿島町6	個 人	S62.3.27	明治33年頃新潟の土蔵職人を呼び寄せ、建築1階は米や穀物、2階は衣類や書物を保管。
	バチラー夫妻記念堂	伊達市向有珠町119	日 本 聖 公 会 区 北 海 道 教 区	H4.9.28	アイヌの父とうたわれたジョン・バチラー博士夫妻を記念して信者らが建てた石造りの建物。
	迎 賓 館	伊達市梅本町61-2	伊 達 市	H4.9.28	明治25年、開拓状況を視察する政府高官や開拓使などを接待するために伊達家が建築。
	旧 伊 達 家 蔵	伊達市梅本町61-2	伊 達 市	H4.9.28	明治10年頃の建築で、大きな梁に桁を組む仙南地方の手法が特徴的で御蔵と呼ばれた。
	旧もんべつ製糖所製糖機械	伊達市館山下町1	北 海 道 糖 業 (株) 道 南 製 糖 所	H16.4.23	フランス製の製糖機械で、1880年に我国最初の官営製糖工場が伊達に建設された際に導入されたもの。
	巨理伊達家指小旗	伊達市鹿島町20-1	伊 達 市	H24.9.28	仙台藩一門巨理伊達家を示す指小旗である。
無形民俗文化財	仙 台 神 楽	伊達市東関内町78	伊 達 市 仙 台 神 楽 保 存 会	S46.8.27	明治の入植とともに持ち込まれた豊稔祈願の「神芸事」で、12の舞から構成される。
	柳 心 介 膏 流	伊達市永末町7	柳心介膏流保存会	S59.3.10	巨理伊達家の御留流柔術で、移住とともに当地にわたり保存会によって伝承されている。
	さ ん さ 時 雨	伊達市弄月町211	伊 達 市 さ ん さ 時 雨 保 存 会	H20.6.27	伊達政宗が戦勝を祝って歌わせたのが始まりとされ、移住にともない当地に持ち込まれ、今日まで受け継がれている。
史 跡	旧 伊 達 邸 庭 園	伊達市梅本町61-2	伊 達 市	S48.12.27	開祖伊達氏の旧邸跡で、昭和31年莫大な史料や美術品とともに伊達家が市に寄贈した。
	鐵 入 れ の 碑	伊達市梅本町37	伊 達 市	S48.12.27	明治3年の第1回移住の際に初鐵が下ろされた所で、開基50周年に碑が建立された。
	館 山 チ ャ シ	伊達市館山町7	伊 達 市	S48.12.27	縦100m、幅10mの壕が北西部と南部に2条ずつあり西部に盛土がある典型的なチャシ。
	バ ッ タ 塚	伊達市松ヶ枝町217	伊 達 市	S48.12.27	明治13年に飛来したイナゴの大群を焼き払って塚としたもので長方形の形態が特徴的。
	有 珠 会 所 跡	伊達市有珠町86	伊 達 市	S48.12.27	寛文年間に設けられた有珠場所の経営の中心となった建物のあった場所。
	創 治 記 念 碑	伊達市梅本町44	伊 達 市	S56.3.11	開拓の際に行政庁を置いた本市開拓の拠点で、開基50周年に碑が建立された。
	ポ ン チ ャ シ	伊達市向有珠町163-2	伊 達 市	S62.3.27	頂部を削って平らにし、南側に段を2段築造した祭事用のチャシと考えられている。
	茶 飲 み 場 遺 跡	伊達市北黄金町75-103	伊 達 市	H9.4.25	家臣を率いて移住した伊達邦成公が、巡回の際にお茶を飲んだところ。
	北 黄 金 3 遺 跡	伊達市北黄金町75内	伊 達 市	H9.4.25	縄文時代晩期の遺跡で、曲玉が採集されていることから墓地の可能性が高い遺跡。

区分	名称	所在地	所有者	指定年月日	概要
史跡	有珠6遺跡	伊達市有珠町271-1内	個人	H19.6.22	道内でも最古級の縄文時代早期～前期の貝塚。
天然記念物	柏	伊達市中稀府町86	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	サイカチ	伊達市弄月町191	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	サイカチ	伊達市松ヶ枝町88	個人	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	一本かしわ	伊達市弄月町46	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	ニシ	伊達市舟岡町143	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	ケヤキ	伊達市元町78	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	ニシ	伊達市元町78	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	ヒノキ	伊達市末永町228	個人	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	イチヨウ	伊達市末永町7	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	柏	伊達市長和町627	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	ケヤキ	伊達市鹿島町28-1	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	杉	伊達市向有珠町64	伊達市	S48.12.27	開基百年を記念して「百年の樹」に指定された、開拓の往時を偲び先人にゆかりの古木12件の内1件。
	シナサワグルミ	伊達市鹿島町28 (青少年広場)	伊達市	S58.7.19	中国に自生していたものを明治時代に持ち帰ったとされ、道内には珍しい巨木である。
	いちよう	伊達市元町18 (大雄寺)	伊達市	H9.4.25	伊達家の菩提寺である胆振山大雄寺の境内に明治13年頃植えられた地域の象徴的老木。
	三本杉	伊達市有珠町124 (有珠善光寺)	善光寺	H9.4.25	文化元年に幕府の官寺として善光寺が建立される以前より生育、歴史を物語る老杉。
	いちよう	伊達市有珠町124 (有珠善光寺)	善光寺	H9.4.25	文化元年に幕府の官寺として善光寺が建立される以前より生育、歴史を物語る老木。
	石割り桜	伊達市有珠町124 (有珠善光寺)	善光寺	H9.4.25	奇僧第二世鸞州上人が植えたとされ、石を割って成長した樹齢190余年の名木である。
	かしわ	伊達市北黄金町75-10 (北黄金貝塚公園)	伊達市	H9.4.25	かしわはその樹勢がきわめて強いことから先人の教育に対する熱意の象徴であった。
ハルニシ	伊達市大滝区本郷町10-1	(株)大滝開発	H19.11.22	旧大滝村の記念樹であり開拓のシンボルであった。樹齢約400年、樹高約15m。	